

学校と地域の融合教育研究会

会報 NO.20



マーク制作: 関知穂子(秋津コミュニティ: 蚊帳の海一座)

2002.11.30

融合研のホームページ: <http://www.yu-go.info/>

事務局: 〒273-0122 千葉県鎌ヶ谷市東初富3-23-6 TEL&FAX: 047-445-3669

事務局の諸般の事情で、会報の発行が遅れましたことをお詫びいたします。

本号の内容

- 1 重要; 事務連絡 (返事をいただくことになります)
これからの会報発行 等
- 2 福岡フォーラムの詳細記録
分科会・講演の記録
新聞の掲載記事
参加者のアンケートより
事務局会議での総括(反省会)より
- 3 今後の活動予定
全体として
各地での動き
愛知県松山市PTA連合会の勉強会
新潟県青海町立市振小学校
岩手県紫波町での春季フォーラム記録と新聞紹介記事
- 4 連絡いろいろ
2004年度のフォーラム開催の立候補を受け付けます
2002年度融合研役員と事務局体制

重要な事務連絡です

事務局では、再三にわたり、会員への情報提供システムをはじめ事務上の手続きの効率化を検討してまいりました。その結果、今後は以下のようにさせていただくことになりました。ご検討のうえ、返信くださるようお願いします。

1 会員への情報提供システムためにインターネットの有効活用を図る。

会報の発行を、「メール会員」と「印刷物会員」に分ける。

会員数の増加とともに、メールをお持ちの会員が、3分の2を超えました。そこで、「メール会員」には、印刷物での会報は配布せず、インターネット上で検索していただく。これにより、事務量の減少になるとともに、会費の大半を占める送料の節減になります。

「メール会員」を選択した方は、配信された「you-goメール(メーリングリスト)」にて、事務局までメールでご連絡ください。「印刷物会員」を選択した方は、別紙に記載の上「FAXで」返信ください。

ホームページを充実させます。(順次、作業に取り掛かっています。パスワードは、ときどき変更します)

これまでの全ての会報；第一号からはもちろん、発足までの経緯等も掲載します。新聞の切り抜き情報等は、スキャナーかデジカメで取り込みます。

これまでのフォーラム詳細；これまでに10回のフォーラム・ミニフォーラムを開催してきましたが、そのうち記録として残っているものを全て掲載します。

各地の情報；会員が企画したり参加したりする講演会やミニフォーラム的な活動が、各地で盛んになりました。情報提供をいただければ、会場地に近い人へ参加を促すことができます。ホームページに常時掲載します。予定のある方は、ご一報ください。

マスメディアに取り上げられたり、執筆したものが掲載されたりしたとき、またその予定がある場合は、ご一報ください。ホームページ上に掲載します。その場合、ホームページに掲載してよいかどうかを版元にご確認ください。投稿は、大歓迎です。実践されていることや学社融合について思うことなど、事務局へお寄せください。

2 銀行口座を開設します。

会費の納入について、これまでは郵便局の口座だけでしたが、「銀行口座があると便利だ。」という声があり、この度以下の口座を新設しました。ご不便をおかけしました。ご利用ください。これからも、要望があたりでしたら事務局までご連絡ください。郵便局の口座も今までどおりつかえます。

銀行口座 東京三菱銀行 普通預金 (店番)277 (口座番号)1759307 (名義)融合研 宮崎稔

郵便局口座 (記号)10500 (番号)42592921 宮崎稔 (住所)〒285-0843 佐倉市中志津7-17-4 融合研

2002年度からの会費は、3000円です。前年度分が未納の方いっしょにお願いします。

大成功・大反響！'融合フォーラム2002in福岡

融合研創立5周年記念&初めて西日本で開催の福岡フォーラムが、8月10日(土)～11日(日)に福岡県社会教育総合センターを会場に開催されました。

今回の特徴は、休暇がとりやすい時期に開催されたこともあり、これまで都合がつかなかった「その道の第一人者」にも、たくさん参加していただきました。また、提言者等の日常活動が新聞紙上で連載されていたこともあり、終了後も大きな反響を呼び起こしました。

融合フォーラム2002in福岡

- ・全体テーマ案 さあ本番！学社融合の教育創造！ 子どもがつかなく学社融合
- ・主催：学校と地域の融合教育研究会
- ・後援；福岡市教育委員会、北九州市教育委員会、西日本新聞社、日本教育新聞社、(財)全日本社会教育連合会、農山漁村文化協会

1日目 8月10日(土曜日)

<全体会>

- ・13:00 開催行事 主催者挨拶・分科会関係者・屋台フォーラム発表者・ファシリテーター等の紹介
- ・13:30 提言

1. 高齢者は社会の資源だ！

庄子平弥融合研副会長(仙台シニアネット)

2. 佐賀県「学社融合」のこれまでとこれから 村岡智彦会員（佐賀市立嘉瀬小学校長）

3. インターネットで出会いをあそぼう！ IT時代の子どもたちとともに

* 斉藤正一融合研事務局次長・NPO法人LIT理事長（千葉）他+子どもたち

- ・ 15:15 分科会；
- ・ 18:00 屋台フォーラム
- ・ 20:00 懇親会+セリ市

2日目 8月11日（日曜日）

- ・ 9:00 ファシリテーターによる1日目の全分科会の報告 吉田まりえ氏（福岡）ほか
コーディネーター：渡邊正親会員（前新潟県立生涯学習推進センター所長・大養小学校長）
- ・ 9:30 提言
4. 学校の安全と地域のノーマライゼーション 種田祝次会員（千葉・秋津コミュニティ）
5. 完全学校週5日制とコミュニティづくり 岸裕司融合研副会長（千葉・秋津コミュニティ）
- ・ 10:00 講演：寺脇研氏（文部科学省審議官・生涯学習担当）
- ・ 11:30 パネルディスカッション
テーマ：学校と地域の融合～それぞれのアプローチから
パネラー：寺脇研氏
油谷雅次会員（大阪府社会教育委員・貝塚市北小学校ふれあいルーム）
江口勝善会員（千葉県鎌ヶ谷市小学校長・水俣市出身）
松浦義和会員（広島戸宇小学校長・前広島県尾三教育事務所生涯学習課長）
コーディネーター：宮崎諭融合研会長（千葉県習志野市立大久保東小学校長）
- ・ 13:00 昼食 *融合研会員は昼食を取りながら総会
- ・ 14:00 ふれあいタイム *話し足りない人・聞き足りない方の出会いの場
- ・ 15:30 終了解散

それぞれの記録詳細

提言 提言の記録ではなく、配布された資料を同封しました。

1. 高齢者は社会の資源だ！ 庄子平弥融合研副会長（仙台シニアネット）
2. 佐賀県「学社融合」のこれまでとこれから 村岡智彦会員（佐賀市立嘉瀬小学校長）
3. インターネットで出会いをあそぼう！ IT時代の子どもたちとともに
* 斉藤正一融合研事務局次長・NPO法人LIT理事長（千葉）他+子どもたち
4. 学校の安全と地域のノーマライゼーション 種田祝次会員（千葉・秋津コミュニティ）
5. 完全学校週5日制とコミュニティづくり 岸裕司融合研副会長（千葉・秋津コミュニティ）

分科会

A. 学社融合っておもしろい！

コーディネーター：桑原広治会員（熊本県五木北小学校教頭）

<事例発表>

仙波英徳会員（愛媛県・松山市PTA連合会YOUGOネット委員長・前市P連会長）

村上 弘会員（前北九州市教育委員会社会教育主事）お年よりと学ぶ「尋常小学校」
江口勝義会員（千葉県鎌ヶ谷市立初富小学校長）

B．地域・行政とともに歩む学校・コミュニティづくり

コーディネーター：重松孝士氏（福岡県立社会教育総合センター所長）

<事例発表>

西川敏之会員（山口県大島郡教育事務協議会）

氏原昭彦氏（群馬県企画部企画課特定課題推進グループ）+ 戸叶俊文会員（群馬県大島公民館注査）

野口正之氏（北九州市門司区藤松公民館事務局長）

大畑伸幸会員・渋谷秀文会員・勝部薫氏（島根県益田市含む7つの市町村「綺羅星7」）は、道路渋滞のために間に合わず、屋台フォーラムで発表しました。

C．環境学習とピオトープづくり

コーディネーター：田中敏久会員（西東京市立柳沢小教員・全国学校ピオトープネットワーク理事）

<事例発表>

今野英山氏（東京都株竹中工務店技術研究所・先端研究開発部）

漁船政子氏（高知県・高知子どもの遊びを考える会代表）

榎重善会員（千葉県習志野市秋津コミュニティ運営委員 + 田中宏実会員（千葉大院生）

栄永徳博氏（熊本県水俣市環境対策課長）「学校版ISOの環境学習」

D．総合型地域スポーツクラブとコミュニティづくり

コーディネーター：森川貞夫会員（東京都・日本体育大学教授・体育社会学研究室）

<事例発表>

田上洋介会員（長野県木曽郡上松町教育委員会教育次長）

中平稔人氏（福岡県教育庁教育振興部スポーツ健康課生涯スポーツ班・社会教育主事）

田中理恵子氏（福岡市主婦卓球愛好会）

嶋村清一氏（千葉県・習志野市ベイサイドスポーツクラブ運営委員長）

講演 寺脇研氏（文部科学省文化部長）

パネルディスカッション テーマ：学校と地域の融合～それぞれのアプローチから

パネラー：寺脇研氏

油谷雅次会員（大阪府社会教育委員・貝塚市北小学校ふれあいリーム）

江口勝善会員（千葉県鎌ヶ谷市小学校長・水俣市出身）

松浦義和会員（広島戸宇小学校長・前広島県尾三教育事務所生涯学習課長）

コーディネーター：宮崎稔融合研会長（千葉県習志野市立大久保東小学校長）

参加者のアンケートより 回答数27枚

1 あなたは、このフォーラムについて何で知りましたか。

- (9) 会報
- (1) 新聞や雑誌の案内(それは)
- (18) その他(PTAから;3人 学校から;1人 案内パンフ;3人 所属団体;1人 会員の紹介;2人 インターネット;2人 メールリストで;2人)

2 このフォーラムは、何がよかったですか。(いくつでも)

- (17) 提言 それは (1;2人 2;6人 3;5人 4;5人 5;9人)
- (16) 分科会 それは (A;5人 B;9人 C;0人 D;3人)
- (11) 屋台発表 とくに (綺羅星7;5人 森崎さん;1人 大阪府;3人 川崎市;2人 秋津コミュニティ;2人 地域の宝物マップづくり;1人 全体の雰囲気が良い;1人)
- (6) 夜の懇親会 (有意義だった)
- (20) 講演
- (5) パネルディスカッション
- (1) ふれあいタイム

3 このフォーラムに対するご意見・ご希望

パワフルな人たちの集まりだ。このパワフルさが、融合教育・学習の原動力に違いない。私は、ちとパワー不足だが、この人たちのパワフルさは、好ましく頼もしい。分科会の全てに興味があり、それが、5分のまとめだけでしか聞かないのは、残念だ。提言・講演はもっともっと短くして分科会を併行させないで、なるべく多くの実践報告に基づく議論を活発にすることはできないでしょうか。

手作りに感謝。ファシリテーターはとくにすごい。もっと民間(この言い方には違和感があるが)・PTAでがんばっている人が多くて励ましあえたらいいと思う。行政・学校関係者が多く、バランスが悪い。

非会員で、初めての参加ですが、秋津コミュニティを始め様々な実践に触れたので良かったです。が、分科会などは、各地の実践報告に終わって、テーマの絞込み・深まりが物足りなかった。パネルも寺脇氏の挑発の勢いに比べて、悪口で盛り上がるどころか、「立場上」等と、縮んだ議論で物足りなかった。唯一、宮崎氏のまとめで救われた。

福岡は遠かったが、来てヨカッタ。とても有意義な発表だった。私も、学校事務職員としての立場から、積極的に情報開示をしていかなければと感じた。それとともに、自分自身も多岐に亘り積極的に関わっていく必要があると改めて感じた。持ち帰り、校長にも報告して一緒に考えてみたい。

種田さん・岸さんの提言が特にシャープでよかった。「HOWからWHYへ」と、意味を問う発言が出てきたのはとてもよかった。私もドタバタしないで、じっくり意味を聞きたいと思う。

分科会Dは、もう少し時間が必要と感じた。もしくは発表者を減らしてもよかった。レクレーションが初日にあると、交流も図れてよいと思う。

引き続き開催して欲しい。校長・教委や、まだやっていない人のホンネが聞ける場がほしい。つるし上げとか何故できないかを聞くため。

たいへんよい。ただ発表などにおいて、みなさんが言いたいことが多いせいか、自分の取り組みばかり語り、話し合いにならなかった部分が多かったのは残念です。

生き生きしているみなさんの姿に感銘！！

すばらしいフォーラムでした(スタッフ、活動報告等)。これからも継続して欲しい。

西日本新聞を読み、学社融合の一部を知り参加。熱気に溢れた方々にあえて楽しかった。

全国各地で開催することによって、会員の人はもちろん初めての参加者にも融合の発信ができる良い会だと思う。開催にあたり、開催地の担当者や事務局に敬意を表します。

とてもよかった。ぜひ松山市でも開催したい(できれば)。寺脇さんの講和やパネルディスカッションを聞いてよかった。手段が目的になってはいけない。夢を持つことの大切さを学ばせていただいた。

学社融合について、それぞれの分野での実践がありとても参考になった。学社融合は目的ではなく手段・方法であるという言葉が心に響いた。いろいろなやり方があるのだと再認識させられた。

B分科会は焦点が分かりにくかった。個人的には群馬県の「小さな自治システム」のけんきゅうには興味がわきました。校区ごとの、自治だと「わが町の学校」として、学社融合から学校づくりがまちづくりにつながるチャータースクールのような形も可能なのかなと思った。

二日間という短い中で、メニュー盛りだくさんという豊富なフォーラムでした。学社融合の言葉のみ一人歩きしてしまいがちで自分でもとらえにくくなっている悩みを解消することができました。屋台発表は、できれば発表者に細かく話が聞ける、質問できる形ならよかった。

たいへん勉強になった。

運営のみなさまごろうさまでした。この会の良いところは、肩書きが見えないところだと思います。「長」のつく方がゴミを片付けてくださり、また思いを懸命に伝えようとしてくださる方ありで、単純な私は“世の中はきっとよくなる”とも思って帰ってきます。

今回のフォーラムでは、目新しい情報は少なかった。次回は分科会を充実させてもらいたいことと、テーマに対する発表内容を十分に考えて、焦点がズレないようにしてもらいたい。

参加者のみなさんの学社融合に対する熱意や実践にいろいろと学ばせていただきました。「学社融合は手段であって目的ではない」ことをつい忘れがちで再確認できてヨカッタ。

初めて参加しました。熱い思いが伝わって来ました。教師という立場で参加しましたので、教師に求められている「意識改革」をつよく実感させられました。学校側からの発表が聞きたかったです(校長先生の発表はありましたが、行政的な、あるいは学校全体の取り組みの発表はなかった)。温度差があるのでしょうか。

全国の活気あふれる方々の参加の中、初めて参加させていただきました。とても刺激的なフォーラムでした。いろいろな立場の人たちの意見を交え、目指すところは同じなんだと改めて実感しました。屋台フォーラムでは、気軽にいろいろな方々とも交流が図れ、とても楽しくなごやかな雰囲気勉強できました。

全国の取り組みの事例発表はこれからの活動に役立てたいと思います。

第一線で活動されている皆様の熱気に触れ、たいへん刺激的でした。「小さな自治システム」についての事例発表を聞き、まずはこのネットワークをしっかりと機能させることから始めなければいけないのではないかと感じました。

分科会Bに参加しましたが、もう少しポイントを絞り込んで話し合ったほうが良かった。群馬の「小さな自治」のシステムはおもしろいと思いました。行政や学校、そして公民館等への働きかけをしていかないといけないと感じました。最終的にそれぞれの“意識をもった自立”を目指したいと思います。それにはもっと勉強しなければ、でも頭でっかちにならない様、“行動あり”で行きたいと思います。

4 学校と地域の融合教育研究会に対して

関心が(ある 24名、ない 0名 未記入 2名)

「ある」と答えた方に、それは、どんなことについてですか。

融合教育の各地の事例の具体的内容とそれぞれの取り組みによる子どもと地域と教師・学校の変容について。それらを通して子供達にとってのよりよい学びあい方・学びの場のありかたを考えていくことができれば。

中学校(中学生)と地域との接点

地域のおもしろい拠点・基地として学校を利用したい。「この指とまれ」方式で、いろいろ好きなことをしたい。

大阪吹田市で「土曜チャレンジデー」が始まったばかりで、隣の「土曜ぐう・ちよき・ばあ」とともに、今後の展望を描きたいと思います。

学校にいる行政側職員として、どのような形で協力できるのかたいへん興味があります。本校の校長先生も学社融合にたいへん興味があり、よく一緒に話し合っています。今後も融合研を活用させていただき、子どもたちのためより良い学校づくりをしていきたいと思っています。

引き続き、スポーツを切り口にした学習会を企画してくれるとうれしいです。

実践力がある方々が集まっている。

学校を地域に開放していくために、行政の理解も必要と思うが、その前に地域が地道な努力で活動を実践していくことが重要ではないか考える。

現在、けん玉の愛好者だけの会ですが、学校のクラブ活動に、学童保育クラブ・児童館・市民福祉センター等、児童が集まるところアチコチに行き遊んでいます。子供たちに元気をもらっています。

さまざまな立場の方々が、損得・利害関係なく結びついている稀有な組織だと思っています。さらなる広がり・発展するのいいですね。

仕事の面でも参考になりました。学社融合を手段にして、人権尊重のまちづくりを進めていきたいと思っています。保護者の立場としては、子どもたちのために、自分のために学社融合を進めて行きたいと思っています。

すべてが実践に基づいた発表なのでなるほどと思うことがある。

さまざまな立場から子どもを育てることを考えられる点がすごくいいと思いました。

現在、土曜日に学校開放事業をおこなっているが、「今後、継続するには行政のバックアップは本当に必要なのかどうか」という点に関心があります。

子供たち、またまちづくりに対して融合研の皆さんは、熱意がありそして楽しく活動することの素晴らしさを感じることができます。

学社融合を理解しているコーディネータの必要性を感じます。学校が抱え込み、ますます負担を担っている現状をどうすればよいか。学社お互いのメリットを感じられるようにするにはどうすればよいでしょうか。

コミュニティづくりのために、コーディネータをだれにするかで実践方法が違ってくのではないかと考えてみたい。

学社融合について、どういう具合に進めていったか。とくにPTAの側からどう学校に働きかければよいか。

学校と家庭・地域の連携が言われ続けてひさしいが、なかなか具体的な形となっていない。難しい世の中になってきている今こそ、このような新しい試みを実践し、メリット・デメリットを検討し、よりよいあり方を探っていくことは重要だと考える。

私の学校にも空き教室があります。発表を聞いているうちに、私達の周囲の地域の方々にもっと開放し、眠っている才能・技術を子供たちにどんどん伝承していただき、交流を図り、今の核家族では味わえない人間として大切な心を肌で感じて大きくなって欲しいと思うからです。

我が校でも学社融合を取り入れた活動をしているが、公民館・地域の方々の参加が消極的で理解してもらえるのに時間が掛かりそうだと思う。PTAの勉強会も必要だが、公民館・自治体への勉強会も必要だと思う。

学校の総合学習が始まった今、地域との融合が切り離されては考えられないと思います。

PTAの働きかけから始まったばかりの学社融合ですが、私がPTA会長をしている学校での学社融合活動の難しさを感じ

じています。本校学区には、3小学校・3公民館で成り立っているが、それぞれの思いにも違いがあります。融合研に参加して、そのような事例・活動報告があれば聞いてみたいと思います。ちなみに、本校学区の学社融合は学校主導型で、それにPTAと各公民館の主なメンバーが関わるとい形になっています。中学校であるが故に仕方ないと思う反面、高校入試という出口があるが、何か、もっと良いやり方がないかと思う部分があります。全国の事例のなかで、そのあたりを模索できればと思います。

5 その他(どんなことでも)

発表者の他にも参加者の仲でいろいろな実践をしている人や、参加者に有益な情報を提供できる人がいるのではないかなと思う。屋台を出すほどでなくとも、「情報掲示板」のようなものを設置し、多数の情報を提供できるようにしてはどうでしょうか。分量・写真等のことでメーリングリストでは難しいものもあるはずなので。

場所がわかりにくかった。岸さん、寺脇さんに会えてよかった。秋津にぜひ行ってみたい。

秋津コミュニティ他、各地の元気な活動を担っている肩の熱気は素晴らしいですが、行政や学校の方々が、何を求めて参加されているのかよくわからなかった。

多様な立場の方の意見を聞ける融合研はとても刺激になります。もっといろいろな考えに触れて吸収することで、新しいことを創造していきたいと思います。「文化」を目指して教育に寄与していきたいと思います。そのためにも自分自身の改革をしていかなければと痛感しました。また次回も楽しみにしています。今後もいろいろな情報をいただきたいです。元気が付けられました。「課題は当然」という言葉は、「悩みは同じ」と思い、やる気が出ました。

屋台発表のとき、ジュース類を出すのなら、もっと量を多く。飲み物は自分持ち、という手もある。

宿泊部屋のスペースがなくて寝られなかった。大部屋では布団と布団のスペースが開き過ぎたので、一度に布団を敷くとよい。

これからは子どもが一番だと思う。そのための子育てをもっと多くの大人が考え行動していく必要がある。

屋台発表の資料の中に、「おやじの会」のものがありませんでした。私のPTAでも作ろうと思いますので、失敗例・成功例があれば次回も発表して欲しいと思います。

非会員の方が多く、その場で入会できる形がいい。

私の市では、まだ私一人が「語り部」のように学社融合を言っているだけで、学校や教委の方はその意義やメリットを理解してない現状なので、10月の宮崎先生の講演に期待しています。

学社融合のメリットだけが強調されていたように思う。デメリットはないのか。また失敗した事例、成功までの曲折のような部分が知りたかった。これから取り組もうとするものにとっては気になるところです。

岸さんの話をもっと聞いてみたかった。寺脇さんの講演はとても関心がもてました。

「学社融合は目的であってはならない」に、ハッとさせられました。懇親会ではユニークな人とのふれあいができ楽しいフォーラムでした。

疲れ気味でしたが、元気と活をいただきました。

事務局会議での総括(反省会)より

2002年8月30日 於、バンゲア

- ・新たな発掘が多にあった。
- ・初めて参加した人の中からもやる気のパワーが出始めている雰囲気生まれている。継続的なフォローをする必要があるのではないかな。
- ・やること自体に興味があった。『初めの一步』と考えると、これからの期待できることがある。
- ・MLに登録した現地の人の参加(発信)が少なかったが、馴染みがなかったからではないかな。
- ・成功したと言えるだろうが、「現地(会場)」「現地実行委員会」「本部事務局」の三者の連携の難しさがあった。

今後、会員が少ない地域での地方開催は、体制作りをしっかりとしてからでないといけない。

- ・地縁の堅い地域では新たな発想が出にくいのではないかな。
- ・分科会は、「他にも出たかった」という声が多かったが。それは、今回はファシリテーションでフォローした。改善の大きな一歩であった。
- ・ファシリは、本当に素晴らしかった。
- ・『提言』を直列型で設定したが、情報は屋台で手に入れるようにして、接点を作るだけでいいのではないかな。あとは自分の関心があるところ(人)へ出向き、直接接触をすればいい。
- ・むしろ、部門は多くして、発表者を少なくして練り上げていけばいいのではないかな。
- ・分科会に多くの人が発表するとコーディネータが難しい。人を知らないし、活動内容を分かっていない。本部役員で人を知っている人がやったらどうだろうか。
- ・「初めての学社融合」の部会では、一步を踏み出そうとする人には、内容が難しすぎなかったか。この分科会は、会長か実行委員長が「大会の趣旨」や「これまでの成果」等を基調提案すべき。
- ・内容が濃密であった。どこかに、心に残るものがある。それに意味がある。
- ・スタッフが素晴らしかった。
- ・パソコンは自分で持ってきて欲しい。ビデオの人は、各分科会の人を割り当てられるとよい。
- ・申込書の書式がいろいろあったが、ホームページの書式も会報での書式も一定にすればよかった。
- ・申し込みをしても、連絡がなくキャンセルする人がいる。食事代金も本部持ちになるし、受付も出しておかねばならない。善意に頼る手作りの団体であっても、良識だけに訴えていてよいのか。キャンセル料を請求すべき。
キャンセル料は請求しましたが、一人からも入金がありませんでした。
- ・子どものメール会員での参加は、今後の課題。
- ・開催地の決定には、立候補を受け付けるようにする。
- ・人事(役員)は、そろそろ若手に。

本の売上げは、289,750円あった。せり市の収入は、24,323円。残金は、24,323円である。

今後の活動予定

全体として

- (1) 来年度は、大阪でフォーラムが開催されます。
「日時」や「会場」および「内容」等の詳細は、現在検討中です。分かり次第、順次お知らせします。いろいろなアイデアが出ていますので、楽しみにしててください。
- (2) 再来年以降の「フォーラム開催地」の立候補を募集しています。支部や近隣の人と相談したりして手を挙げてください。あるいは、自分ひとりだけでも、その意向がある方は、「事務局へとりあえず相談」してみてください。
- (3) それぞれの地域で開催するミニフォーラムや勉強会の情報をお知らせください。メールでもファックスでも構いません。ホームページに載せて、都合がつく方に広く紹介します。「規模」の大小や「内容」の偏りは問いません。関心のある方に報せます。

各地での動き

広く掲載されたものや事務局へ届いたものは、会報への転載を了承されたものとさせていただきます。
転載されたくない場合は、その旨ご連絡ください。

今後の「会報」の送付について、おたずねします。下記に記入して、ファックスか郵送で事務局までご連絡ください。

氏名

住所

電話

- 今後の会報は ()メールで読むので印刷物の送付は不要です
()メールではなく、印刷物にしたものを送付してください